

牛久市第4次総合計画基本構想(案)に対するパブリックコメントの結果について

1. 意見募集期間

令和2年8月14日(金)～令和2年9月11日(金)まで

2. 意見が提出できる方

市内に住所を有する方

市内に存する事務所または事業所に勤務する方

市内に存する学校に在学する方

3. 基本構想(案)の公表・閲覧場所

牛久市役所3階政策企画課

牛久市中央生涯学習センター

奥野生涯学習センター

三日月橋生涯学習センター

エスカードプラザ

牛久運動公園


牛久市中央図書館

牛久市役所ホームページ

4. 意見提出数

2件

5. ご意見内容と市の考え方

通番	意見	市の考え方
1	1. 概要書をつけるべきである。 ・内容のまとめ ・第3次と第4次の違い ・第3次の未達成事項 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;">  <p style="margin-left: 10px;">一目でわかるように1枚目にまとめたシートが必要</p> </div>	概要を示す資料については、現在策定を進めている基本計画の内容も踏まえ作成し、基本計画のパブリックコメントの際にお示しします。
	2. 新型コロナ感染症対策が反映されていない。	感染症については、序論「第7章 時代の潮流」および施策大綱「1. 健康・医療・福祉」において取り組みの方向性を示しております。 具体的な対策等については、新型コロナウイルス感染症に限らず、感染症の流行が起こった場合を想定し、現在策定中の基本計画において検討してまいります。
	3. 日本遺産に認定された牛久シャトーの活用法（にぎわいづくりや市の活性化）等が、いまひとつ表現されていない	牛久シャトーの活用等に係る具体的な方向性については、基本計画において検討してまいります。
	4. 郷土愛を育てていくための歴史資料館等の設置が入っていない。	ご意見に対する具体的な施策等については、基本計画において検討してまいります。
	5. 他市（つくば、阿見、龍ケ崎）との連携も視野に入れていくべきである。	他市との連携も視野に入れた広域行政については、施策大綱「7. 行政運営」において取り上げており、基本計画においても示してまいります。

	<p>6. 今後の20年への展望をもっと色濃く出すべきである。国際化、IT化、少子高齢化等の波にどう牛久市として対応していくのか。何を市として中核のまちづくりにしていくのか等。</p>	<p>「世代が循環する全世代・全員活躍型のまち」をどのように実現していくかが第4次総合計画の最大のテーマであり、基本構想における7つの政策分野において様々な取り組みにチャレンジし、効果を検証しながら進めてまいります。</p>
<p>2</p>	<p>1. 総合計画の期間について 20年は長すぎる。理由は、 ①世の中は激しく変動しているので、今回策定する基本構想が20年間の変動に耐えられるとは思えない。 ②「20年間を計画期間とする基本構想は、市民意識や社会情勢などに大きな変化があった場合、一部または全部の見直しを行うことができるものとします。」(37頁)との記述があるが、どのような条件であれば見直しをするかの「引き金」が明確ではない。 ③ほとんどの自治体では10年程度だし、牛久市でも、過去3つの総合計画の期間は各々10年間であった。今回なぜ20年にしたのか説明して欲しい。市役所の仕事を減らすために20年にしたと邪推してしまう。</p> <p>2. 過去10年の反省の必要性について 第4次総合計画(2021年～)の立案するにあたっては、過去10年間の第3次</p>	<p>20年後の2040年は、団塊ジュニア世代が高齢者(65歳以上)になるタイミングであり、そのころまでに「世代が循環する全世代・全員活躍型のまち」を実現することを目指し、そこに目標年度を置いたものとなっております。また、基本構想を20年とする一方で、基本計画は5年間から4年間に短縮しており、実務的にはこの基本計画更新のタイミングで基本構想の一部または全部の見直しの必要性を検討することを想定しております。なお、見直しの条件については、そのタイミングにおける状況により判断すべきものであり、一定の条件は設定しておりません。</p> <p>第4次総合計画の立案については、第3次総合計画の前期基本計画5年分及</p>

<p>総合計画を振り返る手続き（分析）が必要である。 第3次総合計画（～2020年）の成果指標の達成状況及びその分析はいつ発表されるのか？</p>	<p>び後期基本計画期間5年間の内終了した4年分の実績を踏まえたものとなっております。 なお、第3次総合計画後期基本計画5年分の実績については、計画年度（令和2年度）終了後に実績をとりまとめ、公表を予定しております。</p>
<p>良かった点は更に継続・強化する。悪かった点は原因を解明し、軌道修正すべきか、否かをきちんと分析すべきである。例えば（これだけに限定しないが）、 ①牛久シャトーのレストランと土産物店の撤退の件 ②牛久都市開発がイズミヤから預かっていた敷金を返済できなかった件 ③「緑を守り自然にやさしいまちづくりを推進する（緑化の推進）」と言いながら、久野町にメガソーラーが建設された件。 上記③に関連することだが、都市計画マスタープラン改訂に係る市民アンケート調査（2019年度調査）（16頁）で、今の牛久市をイメージする言葉に「自然な」が第2位（35.4%）であったが、将来の牛久市をイメージする言葉に「自然な」は第7位（16.2%）になっている。これは、多くの太陽光発電所ができている現状を見た市民が「こうなるだろうな」と想像しているからであり、「こうなってほしい」ということではないと思う。 http://www.city.ushiku.lg.jp/data/doc/1599014652_doc_62_0.pdf</p>	<p>いただいたご意見については、大変重要なものと考えておりますが、基本構想においては、各事業における具体的内容までは取り上げていないため、個々の事務事業において対応すべきものと考えております。</p>
<p>3. 市民参加について 2011年3月に策定された牛久市第3次総合計画・前期基本計画（H23～H27）では、2009年2月に「まちづくり協議会」（市民49名、職員34名）を立ち上げて素案の策定段階より市民の参加を求め、2年を費やして計画を立案した。第4次総合計画で市民参加がなかったのはなぜか？</p>	<p>今回の計画策定における市民参加につきましては、昨年末に市民アンケートを実施しており、また令和2年3月に市民ワークショップを開催する予定でございましたが、新型コロナウイルス感</p>

		<p>感染症拡大防止の観点から中止とさせていただきます。その後、ワークショップ参加希望者を対象に、「世代が循環する全世代・全員活躍型まちづくりに係るご意見・アイデア募集」調査（アンケート調査）を追加で実施しており、調査結果については基本計画の策定において参考にしてまいります。</p>
	<p>4. 人口見直しについて 「本市では、2015 年度に策定した「牛久市人口ビジョン」において、2060 年の将来人口の目標を設定しました。その中で、本計画の最終年度である 2040 年の人口も推計しており、本計画においては、この推計値を目標とします。」(2 頁)との記述がある。この基本構想で、推計値を目標とすることは間違っている。その理由は、</p> <p>①人口の目標値とは、「そのレベルまで人口を増加したい」という強い希望をもって設定する数値であり、自然体での推計値ではないはず。人口は、(転入者数－転出者数)＋(出生者数－死亡者数)で計算される。出生者数と死亡者数はどうしようもないが、様々な政策により、転入者数を増やし、転出者数を減らすことができるはずなので、人口を増やすべく、目標を立てて、実行すべきである。</p>	<p>いただいたご意見に関する「推計値」は牛久市人口ビジョンにおける2060年の人口目標の過程の中での数値であり、2040年の数値についても、自然体での推計値ではなく、目標とする数値となっております。</p>
	<p>②牛久市は、牛久の魅力を発信してアピールすべきである。例えば、東京に近い。物価が安い、野菜は新鮮、アウトレット（阿見）、ショッピングセンター（牛久、竜ヶ崎）、成田空港に近い、霞ヶ浦にも近い。災害の面は、東京は水害のリスクがあるが、牛久にはそのリスクはほとんどないので、住宅を供給できる。</p>	<p>牛久市の魅力の発信については、大切な視点と考えておりますので、本市の魅力をアピールすべく、様々な媒体を通じて情報発信を実施しており、今後も継続してまいります。</p>

<p>③「2017年（平成29年）12月をピークに減少に転じました。（住民基本台帳）」（7頁）との記述がある。しかし、牛久市の世帯数は順調に伸びている事実を認識し、それを明記すべきである。</p> <p>http://www.city.ushiku.lg.jp/page/page005895.html</p>	<p>世帯数の増加については8頁に記載しております。</p>
<p>5. 「未来を拓き、地域を担う人が育つまち」（27頁）について</p> <p>「…地域や世界の将来を担う人材を育てていくことが必要です。」との記述があるが、地域から世界に一足飛びするが、世界を担う人材になる前に、「日本」を想う人材であることが前提である。日本を知らない人材は、世界を担う人材にはなれない。よって、このフレーズを「地域、日本、そして世界の将来を担う人材を育てて…」に修正すべきである。</p>	<p>「地域」と「世界」の表現については、当該部分の前項において記載しているとおり、グローバル化の進展として、国や地域を越えて各々の課題を同時に考えていく状況となっている旨を記載しており、その課題を受けた対応として、同様に地域や世界と表現しております。</p>
<p>6. 「根強い性別による固定的役割分担意識」（29頁）について</p> <p>牛久市の「現状と課題」の項目にこのような強いネガティブなフレーズを記載すべきではない。確かに世の中にはその風潮があることは否定しないが、もし牛久市がこのような状況にあるのであれば、基本構想ではなく基本計画に定量的説明をした上で、是正計画を記載すべきである。</p>	<p>当市の男女共同参画に関する市民意識調査において、固定的な性別分担意識があることは確認されており、現時点で当市が持つ解消していくべき課題として記載しているものです。なお、具体的な取り組みにつきましては、基本計画及び個別の事務事業において示してまいります。</p>
<p>7. 多文化共生について（29頁）について</p> <p>「国籍や価値観が異なる人々が集まる中で、多様性を認め合い、ともに地域社会を形成し、誰もが個々の能力を發揮できる社会づくりを進めます。」との記述がある。その通りだと考えるが、その前提を明記すべきである。すなわち、彼らも同様に、日本人と価値観が異なる人及び地域の住民をリスペクトしなければならない、と</p>	<p>本項の文章の主体は、世代や性別、国籍などを限定したのではなく、すべての人が互いに認め合い、多文化共生を目指すものとしております。</p>

	<p>いう大前提である。そのことを明記しないと、①日本人は、外国人あるいは価値観が異なる人々を無条件に受け入れなければならないと考えてしまう恐れがあるし、②彼らも当然にして受け入れられると考え、権利だけを要求する危険性がある。</p>	
	<p>8. 地区社会福祉協議会の貢献について</p> <p>(1)「教職員の資質向上や地域の市民との協力、保健・医療・福祉分野、地区社会福祉協議会等との連携、学校施設の整備などにより、すべての子どもが安心して学びに向かうことのできる環境づくりを進めます。(教育環境)」(27頁)</p> <p>(2)「本市では多くの市民、企業、NPO、市民団体、ボランティアが、地域コミュニティの維持や活性化、課題解決などのために活躍し、また、行政区では地域の集会所を常時開放する「たまり場」の活動や、地区社会福祉協議会では地域ごとの課題解決の取り組みなどが進められています。」(29頁)</p> <p>基本構想が地区社会福祉協議会(以下「地区社協」という)に対しどの位の貢献を求めているのかが明確ではない。もし地区社協に大きな責任を担ってもらおうと考えているのであれば、それは困難だと考える。なぜならば、人材が少ないし、本当の意味でボランティアになろうとして地区社協に参加している人たちは極めて少数であるからである。(これは牛久市の1つの地区社協だけしか知らない私の経験から判断したものである。役員の大部分は行政区の役員が自動的に組み込まれており、消極的に参加しているのが実態である。)</p> <p>牛久市総合計画審議会の委員の皆様には、地区社協の実態を調査した上で、上記の記述を残すか、修正するか決めて頂きたい。</p>	<p>ここで示した説明は、現状の地区社会福祉協議会の活動や取り組みについて述べたものであり、地域とともにある学校づくりを目指すコミュニティスクールをはじめ、地域連携を図り住民同士が助け合い、活動をしています。今後においても、できるだけ多くの人々が互いを認め合い、助け合って活動していくということが必要とされており、地域福祉の分野において、『無理なく、ほどよく(無理をしないで、出来る範囲で)』地域福祉に参加できる環境づくり」という考えを示しております。</p>
	<p>9. 意味がわからない言葉について</p> <p>①「世代がめぐる」(22頁)はこなれた日本語ではないと思う。</p> <p>②「市民参加」「市民参画」(29頁)を別項目にするだけの違いがあるのか。</p>	<p>①「世代循環のまちづくり」や「多世代循環のまちづくり」は本市と同様の課題をもつ地域で多く使われている表現</p>

		<p>となっており、市民と共に目標に向かって政策を進めていくという意味合いも踏まえ、「循環」よりもあたたかみのある表現として、循環と同義の「めぐる」と表現しております。</p> <p>②第1段階が「市民参加」、第2段階は計画段階も市民が意見を言えるような段階として「市民参画」、第3段階は同じ目標に向かって一緒に働きましようという段階として「市民協働」、第4段階は新しいものを一緒に作り上げていきたいと思いますという段階として「市民共創」と使い分けています。</p>
	<p>10. 「ゼロカーボンシティの表明」(31頁)について</p> <p>2020年8月、牛久市は環境大臣によりゼロカーボンシティとして認定されている。</p> <p>具体的な取り組みについては、基本計画あるいは実施計画で策定されるはずであるが、牛久市にとって、二酸化炭素の実質排出量ゼロを達成するためには、牛久クリーンセンターにおける排出量の削減ができるか否かが鍵であるはずである。</p> <p>①実質排出量にするために、2050年にごみ(家庭系ごみ、資源物、事業系)を明確にすべきである。(その目標値は実現可能でなければ、そもそもゼロカーボンシティにはならない。)</p> <p>②3～4年毎に達成度の進捗度合いを明らかにしてほしい。そうすることで、市民をやる気にさせることができると思う。</p>	<p>牛久クリーンセンターでは、設備の寿命化のため、ごみ焼却施設の基幹的設備の改良工事を施工し、各設備のインバーター制御化、高効率モーター化、照明のLED化等により、焼却施設において3%以上の二酸化炭素の削減が期待できる見込みであり、現在検証を行っているところです。</p> <p>①②については、現在、施策の進捗を把握する年毎の環境報告書と一般廃棄物処理基本計画において、家庭系ごみ排出</p>

		<p>量、資源物排出量、事業系ごみ排出量等を公表しており、今後も継続して事業担当課にて示してまいります。</p>
	<p>11. 土地利用構想図(36頁)について</p> <p>①久野町には大規模太陽光発電所があるが、当該土地利用構想図には、「農地・既存集落地」として色づけられている。小規模な太陽光発電所であれば無視できるが、メガソーラーであるので、表示するべきある。</p> <p>②中央・島田の地域が「工場、流通・業務地」として色づけられている。現状では山林であるが、どのようなプロセスを経てそのような構想ができたのか？</p> <p>ちなみに、牛久市立地適正化計画(平成30年5月)及び牛久市都市計画図(平成30年5月1日現在)を見ると、そのような構想は示されていない。ここでもメガソーラーが計画されているのか？</p> <p>http://www.city.ushiku.lg.jp/data/doc/1524612259_doc_62_0.pdf http://www.city.ushiku.lg.jp/data/doc/1524797730_doc_62_0.pdf</p>	<p>①土地利用構想図は、市内の土地利用の方向性をその地勢、及び今後の土地利用構想を踏まえて表しているものです。</p> <p>当市の土地利用としては、2つの市街地とその他の自然を含む地域を基本とし、住宅系、工業系、農業・既存集落系、森林系の4系統に分けてゾーニングしており、土地利用構想図として、個別施設レベルの土地利用を細分化して表現することはしておりません。</p> <p>②中央・島田の地域に「工場、流通・業務地」の着色はありません。</p>
	<p>12. パブリックコメント要綱について</p> <p>今後発表される基本計画について、市はパブリックコメントを募集するはずだが、今年度中に、パブリックコメントの要綱を定めて頂きたい。</p>	<p>パブリックコメントに関する要綱については、当市における最適な手続き制度について、制定時期も含め検討をしております。</p>